

現	争	な	つ	ま	み		今	は	ま	と	に	本	ん	罪	し	す	場			今	
在	に	ど	い	す	ん	平	戦	な	れ	い	生	だ	。	な	た	。	所	私		私	
も	つ	で	て	。	な	和	争	が	て	う	ま	か	。	き	。	に	は		は		
命	い	よ	の	最	な	と	に	安	い	だ	れ	ら	。	人	私	も	今		今		
懸	っ	く	ニ	近	が	い	巻	心	は	け	。	で	。	が	は	、	と		私		
け	て	目	ュ	ロ	が	う	き	し	、	で	。	す	。	普	戦	戦	も		は		
で	考	に	ー	シ	安	の	込	て	戦	。	。	。	通	争	争	、	幸		は		
戦	え	し	ス	ア	心	は	ま	争	争	あ	。	。	で	で	空	せ		は			
っ	る	ま	を	軍	し	、	れ	が	を	と	。	。	。	か	に	に		は			
て	こ	す	テ	に	暮	戦	て	世	体	。	。	。	。	ら	も	。		は			
い	と	。	レ	よ	ら	争	い	界	験	あ	。	。	。	。	も	。		は			
る	が	そ	ビ	る	せ	が	る	か	し	。	。	。	。	。	も	。		は			
人	多	れ	や	ウ	る	が	も	し	。	。	。	。	。	。	も	。		は			
が	く	を	イン	ク	こ	世	し	れ	。	。	。	。	。	。	も	。		は			
い	な	き	ン	ライ	と	界	。	ま	。	。	。	。	。	。	も	。		は			
た	り	っ	ター	ナ	私	か	。	れ	。	。	。	。	。	。	も	。		は			
り	ま	か	ネ	侵	は	。	。	。	。	。	。	。	。	。	も	。		は			
、	し	け	ッ	略	思	。	。	。	。	。	。	。	。	。	も	。		は			
無	。今	に	ト	に	い	。今	。今	。今	。今	。今	。今	。今	。今	。今	。今	。今		。今	。今	。今	
差	。今	。今	。今	。今	。今	。今	。今	。今	。今	。今	。今	。今	。今	。今	。今	。今		。今	。今	。今	。今

別攻撃によって命を落とす人が大勢います。
もし自分も巻き込まれたらと思うと、考える
のも嫌になるほど怖くて、心が痛い気持ちに
なります。戦争でどれだけ多くの領地を手
に入れても、どれだけ権力を握ったとしても、
失われてしまいう命というものはあります。私
は命よりも大切なものなんてないと思ってい
ます。尊い多くの命を犠牲にしてまで戦争を
起こす理由なんて存在するのだろうかと疑問
に思いながら私はニュースを見ていました。
このまま戦争が続いても、死傷者が増えてい
くだけです。一刻も早くロシアとウクライナ
の戦争を止めなければならぬし、日本で起
きたような悲劇を繰り返してはいけません。
そこで私は、世界中の一人一人が戦争や平和
についてもっと深く、くわしく考え、知る必
要があるのではないかと考えました。私自身
戦争のことをあまりよく知らなかったし、体
験したことがないので、他人事のように捉え
ていたし、今の日本に生まれてラッキーだな

んて思っていました。ですが、ウクライナとロシアの戦争が今現在起こっていることで、戦争というものがとても身近に感じ、興味を持ち始めました。今戦争が起こっているのに何もしないのは傍観者と同じだと思います。原爆の唯一の被害国の日本の国民として、広くて狭い、青く美しい地球に住む一人の人間として平和のために何か動かなければならぬいと強く感じました。

私たちは普段インターネットとともに生活していません。インターネットは、誰でも、いつでも簡単に世界中の人々と繋がれるとても便利なツールです。日本からどんな戦争経験者が減っていき、特に若い世代の人たちで戦争についてあまり知らない人が増えてきています。このままいくと、いつか戦争のことが忘れられていき、同じ過ちを繰り返してしまいかもしれません。そこで、特に若い人たちの利用率が高いSNSを使って戦争について発信したりしていきければいいのではないかと

考えました。世界にはSNSを利用している人が三十九億六千万人もいます。ということは、一人が戦争について発信すれば、三十九億六千万の人たちにその情報をシェアできるという事です。だから、若い人やより多くの人に戦争の恐ろしさや悲惨さを発信するにはSNSが最も影響力が高く、良いのではないかと思いました。インターネットは、命もつないでくれるツールだと思います。戦争を世界から全てなくすというのは、すぐに行えることではないし、そう簡単なことではありません。でも、戦争について考え、知ることが平和への一歩だと思います。一人の力は小さくても、世界中の一人一人が戦争について考えれば平和への七十八億歩になります。私たちが同じ人間なのだから、手を取り合って生きていかなければなりません。いつまでも青く美しい地球を守らなければなりません。戦争がなくなり、笑顔があふれる世界になることを私はいつまでも願っています。